「宇宙フェスタは〝ふるさと祭〟!?」

6月2日(日)を皮切りに、宇宙をテーマにした科学フェスティバルが県内各地で始まります。もちろん生命の海科学館でも、さまざまな宇宙イベントをご用意して皆さんをお待ちしています。実はこれ、〝ふるさと祭〟のようなもの。なんといっても宇宙は〝生命の海〟の故郷なのですから！

★始まりは宇宙から

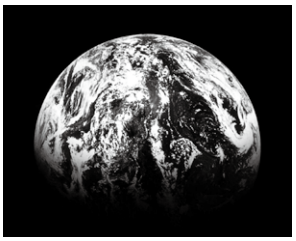
ご存じでしたか？海は、宇宙から隕石に乗ってやって来たのです。46億年前、太陽系を漂う無数の岩が衝突と合体を繰り返しながら成長し、地球が誕生しました。地表は灼熱のマグマに覆われ、天からは無数の隕石が降り注いでいましたが、やがて冷え始めると雲ができ、雨が降り、原始の海ができたのです。この雲の源は、地球の材料となった岩の塊や、隕石の中にあった水だと考えられています。また、後に生命を生み出すもととなった材料も、水とともに宇宙からやってきたとする説があります。そう、生命の海の故郷は〝宇宙〟だったのです。

★そして生命は宇宙へ

そして今、生命の海から陸上へと進出した生物の子孫である人類は、故郷でもあり、新たなるフロンティアでもある宇宙へと目を向け始めました。来年の冬に打ち上げが予定されている小惑星探査機「はやぶさ2」の使命は、水や生命の源となる物質を含む小惑星のかけらを地球へ持ち帰ることです。宇宙への冒険は、私たちのルーツをたどる旅でもあるのです。

★地球について考える機会に

宇宙を仰ぎ、億年の時、億kmの距離に思いをはせる、ダイナミックな〝ふるさと祭〟こと〝ISTSフェスティバル〟。日常を離れ、生命と地球をいとおしむ機会となれば幸いです。


宇宙から見た地球。この視点を手に入れることで、人類はようやく地球の小ささ、はかなさを実感することができたのかもしれません。

～「下ノ郷」の鵜殿家～

戦国時代、蒲郡の中心部は鵜殿氏によって治められていました。鵜殿氏の本家は、上ノ郷城を本拠地としていましたが、市内にはこのほかにも分家の一族、下ノ郷城の鵜殿家がありました。

下ノ郷のお城は、いまの蒲郡高校のあたりにありました。平地に築かれたお城で、二重のお堀によって守られていました。明治時代に作られた地図には、このお城のようすがはっきりと描かれています。

現在、お城のおもかげはまったくありませんが、地元の方々にお話を聞くと、昭和のはじめごろまでは、お堀のあとと思われる「くぼみ」がところどころに見られたそうです。

「東郭」「西郭」という地名が、常会の名前として残っています。

「くるわ」とは「塀や堀に囲まれた場所」を意味し、かつて城郭があったことに由来するものです。

上ノ郷の鵜殿家は、徳川家康に敵対し、駿河（今の静岡県）の今川方についたため、家康に攻められ、ほろぼされてしまいました。

一方、下ノ郷の鵜殿家は、家康に味方したので、滅亡をまぬがれました。これは鵜殿一族をたやさぬため、泣く泣く敵と味方に別れたものと伝えられています。

図書館の近くに長存寺というお寺があります。下ノ郷の鵜殿家によって建てられた寺院で、境内には鵜殿一族のお墓があります。また、戦国時代の貴重な古文書を今に守り伝えています。

下ノ郷城のすがた（明治時代の地図より）
提供：愛知県公文書館